

# 三浦綾子対話集（全4巻）人と自然 1

（1999.2/25 発行 旬報社）

銀色のあしあと……星野富弘

## 星野富弘

1946年、群馬県生まれ。群馬大学教育学部卒、中学校の教師として赴任後、クラブ活動中に頸椎（けいつい）を損傷、手足の自由を失う。9年間の入院生活中に筆を口にくわえて文字とえぜかき始める。病床で受洗。自宅療養のなかで詩画の創作活動を続けている。著書に「愛、深き淵より」「風の旅」「かぎりなくやさしい花々」「鈴の鳴る道」などがある。

## 三浦綾子

「教会に行って特別に学ばなければ、信仰って絶対だめだっていうことじゃないと思うのね。一番大事なことは、十字架がきちんと分かっているかどうかだと思う。だって、自宅療養をして伝道している人がずいぶんいますよね。水野源三さん（1937-1984）がそうでしょう。……野村伊都子（1927-1979。著書「静かなる焔」「流れのほとりに」など）にしても、矢部登代子さんにしてもそうでしょ。どこにも行けず家に臥ている方が伝道できる。不思議ですねえ。

## 星野富弘

「神様というのは、時には遠回りをさせて、いつの間にか味なことをされるなあと思いますね。本にも書いたことがあるんですけど、裏の畑の土手に小さな十字架が建ったんです。それに「労する者、重荷を負う者、我に来たれ」という文字が書いてあって、それを、高校一年生のとき見つけた。豚の肥やしをかごでしょい上げている時、いきなり目の前に現れて、それが聖書の言葉との最初の出会いでした。たまたま豚の肥やしという重荷を負ってましたから、その「労する者、重荷を負う者」という言葉は印象的でした。うまい所に建てたなあと思いました。」

三浦綾子 「いい所に建てましたね。神のシナリオは見事ね。」

## 星野富弘

「ええ、ちょうど坂を登る途中の小さな墓地にあるんですけどね。真っ白の十字架で。ただ「我に来たれ」というのが、その時はどうも分からなかったんです。でも、分からないままに、なんだろうなあっていうふうに何年もずっと思っていました。この東村に教会がないので、神様はそんなふうなかたちで、おれを聖書に出会わせてくれたのかも知れません。」

三浦綾子「黒柳 朝（黒柳徹子の母、エッセイスト）さんが、「素晴らしいものはみんなただ」ということを言っている。太陽の光、風、花、木、自然界」

星野富弘「聖書の分からない所、御心が分からない

「分からないのも神様のみこころ」

三浦綾子「マイナスの数字は多ければ多いほど、プラスになったとき大きな数字になる。  
キリストに出会うとき」

## 核状況を超える視点

黒古一夫との対談

三浦綾子

人間の価値観

聖書に「幸いなるかな心の貧しき者」とか「幸いなるかな...」というのが、いくつかありますが、その中に「幸いなるかなお金を持つ者」「幸いなるかな出世した者」「幸いなるかな権力のある者」「幸いなるかな健康なる者」とか、全然書いてない。聖書の幸福感というのは、そういうものとは全く相反するもの。」

「家庭」という字は、「家」と「庭」という字を書く。衣食住の象徴的なものが「家」であり、美しいものを育てたり、小鳥のとんでくる木や自然を愛する、そういったものが「庭」です。ここで言う「庭」は、現実の庭をさすというより、心のあり方を象徴的にあらわすもの。

心の中に広い広い「庭」があればいい。私たちの生活には、衣食住のほかに、必ず「庭」がなければ、それは「家庭」ではないのです。

## いのちの尊さと平和を求めて

一昭和の激動を生きて希望の明日へ

小田切 正

三浦綾子

三浦光世

「銃口」を書くきっかけに - 「神」と「人間」と  
昭和、特に戦争という激動の中を、主人公の竜太とともに、北森家、そして恋人でクリスチャンの芳子、坂部先生（坂部久哉）、更に金俊明と生き直す、追体験綴方教育連盟 1935年（昭和10年）の夏につくられた。

坂部先生が受け持ちになってまもなく、国語の授業のとき、芳子が遅れて入って来た。

「入りなさい。何も遠慮することはない」

「今、なんだ遅れてきたのか、と言った者がいるな。（略）ところが、芳子は、毎朝五時前に起きるんだ。（略）働きに行くお母さんを手伝って、弁当をつくって、病気のお父さんの顔を拭いて、それから前の日に仕入れておいた納豆を手籠に入れて、売りに行くんだ。納豆をなるべく全部売って帰らないと、芳子は心配なんだ。納豆は売れる日もある。売れない日もある。早く売れるとご飯を食べる暇があるが、売れない日は腹を空かしたまま学校に来ることもある。」

「みんなに言うておくがな、遅刻は悪いと誰が決めたんだ？」

「遅刻っていうのは、みんな悪いと思うよな。だけど、何でもいいとか悪いとか、簡単に決めるのは、あやまちのもとだ」

坂部先生「勉強することは大事だ、だがそれと同じくらい大事なことがある」

「人と仲良くすること」「人と仲良く出来たら、それは大金持ちになりより、すばらしいことなんだ」

「宿題を忘れるより、零点を取るより、ずっと悪いのは弱い者いじめだ。よく覚えておけ、先生も気をつける。」

三浦綾子

教育にはね、教えて教えられないものがある。「覚醒」というのだそうです。自分では  
つと気がつくということでないとは分からない心の問題だってある訳で、人に優しくされてはじめて優しさの尊さが分かるとか、感動するとか。